

学 部	文学部
学 科	
ディプロマポリシー（学位授与の方針）	
<ul style="list-style-type: none"> ・日本または外国の文化や、情報メディアに関する知識・教養を身につけ、それを生かしながら社会の幅広い分野で活躍できる。 ・日本語力を磨き、メディアを活用した表現力を習得し、国内外で通用する高いコミュニケーション能力を獲得する。 <p>〈知識・理解〉</p> <p>高い基礎的教養をもち、そのうえに確かな専門知識を身につける。日本または外国の文化・芸術・社会に高い関心と知識をもち、文化の伝統や多様性を理解するとともに、現代社会の多様なメディア表現についても知り、理解できる。</p> <p>〈汎用性技能〉</p> <p>基礎および専門の学びを通じて、社会にも通用する実践的な知識・技能、情報リテラシーを身につける。日本語力を磨き、外国語を習得し、グローバル社会に対応可能なコミュニケーション能力や自己表現能力を身につける。</p> <p>〈態度・志向性〉</p> <p>日本や外国の文化に高い関心を寄せ、また習得した知識・技能を卒業後の社会生活に生かすことができる。制作および実践を通じて多様な表現やメディアを理解し、また自ら発想する力を発揮できる</p> <p>〈総合的な学習経験と創造的思考力〉</p> <p>文化・言語・メディアについて机上での学びを生かしながら、学内外において体験的に学ぶことによって、総合的で社会生活にもつながる生きた知識を獲得できる。自主的、主体的に学びとり、状況に応じて発案することができる。</p>	

学 部	文学部
学 科	日本語日本文化学科
ディプロマポリシー（学位授与の方針）	
<p>日本語・日本文学・日本文化について豊かな教養を身につけ、社会に貢献できる人材の育成を目標とする。習得した知識・教養・技能を生かし、主体性・創造力を身につけ、新たな課題を発見し解決する力を養成する。多様な価値観を認め、コミュニケーションを深め、連携する力も備えなければならない。</p> <p>1. 知識・理解</p> <p>社会人としてふさわしい日本語運用能力を修得し、情報理解力・情報発信力・コミュニケーション能力を身につける。日本語・日本文学を客観的・科学的に捉えることができる。日本の歴史的文化的な背景を理解し、文学・芸能・美術・宗教・歴史などの日本文化に関する幅広い教養を備える。</p> <p>2. 汎用性技能</p> <p>論理的な文章を的確にまとめることができる。会話ではビジネスマナーに則った正しい表現を心がけ、自分の意見を表出しつつ相手の立場を尊重する協調的態度を養う。与えられた課題だけでなく自ら問題・課題を発見し、適切な解決策を探ることができる。</p> <p>3. 態度・志向性</p> <p>授業で教わることだけに満足せず、さまざまな分野での教養を体系的に身につけようとし、適切に情報を収集し活用できるようにする。自己と他者への理解を深め、豊かな人間性を養い、他者と協調する姿勢を身につける。大学での学習を基に、社会的義務を果たし社会に貢献する意欲を持つ。</p> <p>4. 総合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>物事に対し、多角的な視点から本質を捉える眼力を備え、自ら目標を設定したり問題を見出し、課題を解決していく能力を身につける。常に情報収集を心がけて教養を豊かにするとともに、問題探究に積極的に取り組む。</p>	

学 部	文学部
学 科	メディア表現学科
ディプロマポリシー（学位授与の方針）	
<p>メディア表現学科の教育は、作品を発信と受信の双方向的関係のもとに捉え直し、その作用と影響力について考察できる能力を身に着けることを目的とする。ここでは、グラフィックデザイン、写真、アニメーション、マンガ、映画、広告などの視覚文化領域に関する基礎的な知識と制作方法を学ぶことができる。また、情報社会を生きるために必要なメディア・リテラシーを獲得し、様々なメディアを利用したコミュニケーション能力の向上を目指す。</p>	
<p>1. 知識・理解</p> <p>メディアは送り手と受け手の間にある表現活動の中継地点に存在する。表現行為は単一方向的なものでなく、双方向的なものと理解しなければならない。そのためには広範な知識の獲得と社会への理解はもちろんのこと、メディアを媒介にして交換される記号の作用と人間の情動反応に関する理解が不可欠となる。</p>	
<p>2. 汎用性技能</p> <p>コンピュータを活用したメディア表現、言語を利用した文芸表現、写真・映画などのヴィジュアルカルチャー、自己表現としてのファッションなど、立案から制作に至るまで一貫して行い、伝達内容に応じた表現方法を学ぶことができる。</p>	
<p>3. 態度・志向性</p> <p>表現手段の多様化、メディアの多様化に対応するためには、常に新たな情報ツールに積極的に適応する態度が求められる。しかし情報ツールは、身体の拡張をもたらすものであるがゆえに、その影響面への批判的な関心を欠いてはならない。</p>	
<p>4. 総合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>メディアを活用した表現の目的は、伝達する内容を形式化することだけでなく、情報の到達に至るまでの過程をデザインすること、すなわち情報受信における影響、効果に配慮した表現方法を模索することにある。本学科における学習経験は、実社会の諸活動の場面にいても、良好なコミュニケーション関係を構築する有効な手段となる。</p>	